

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト
【蓮遊水地について】

国土交通省 千曲川河川事務所

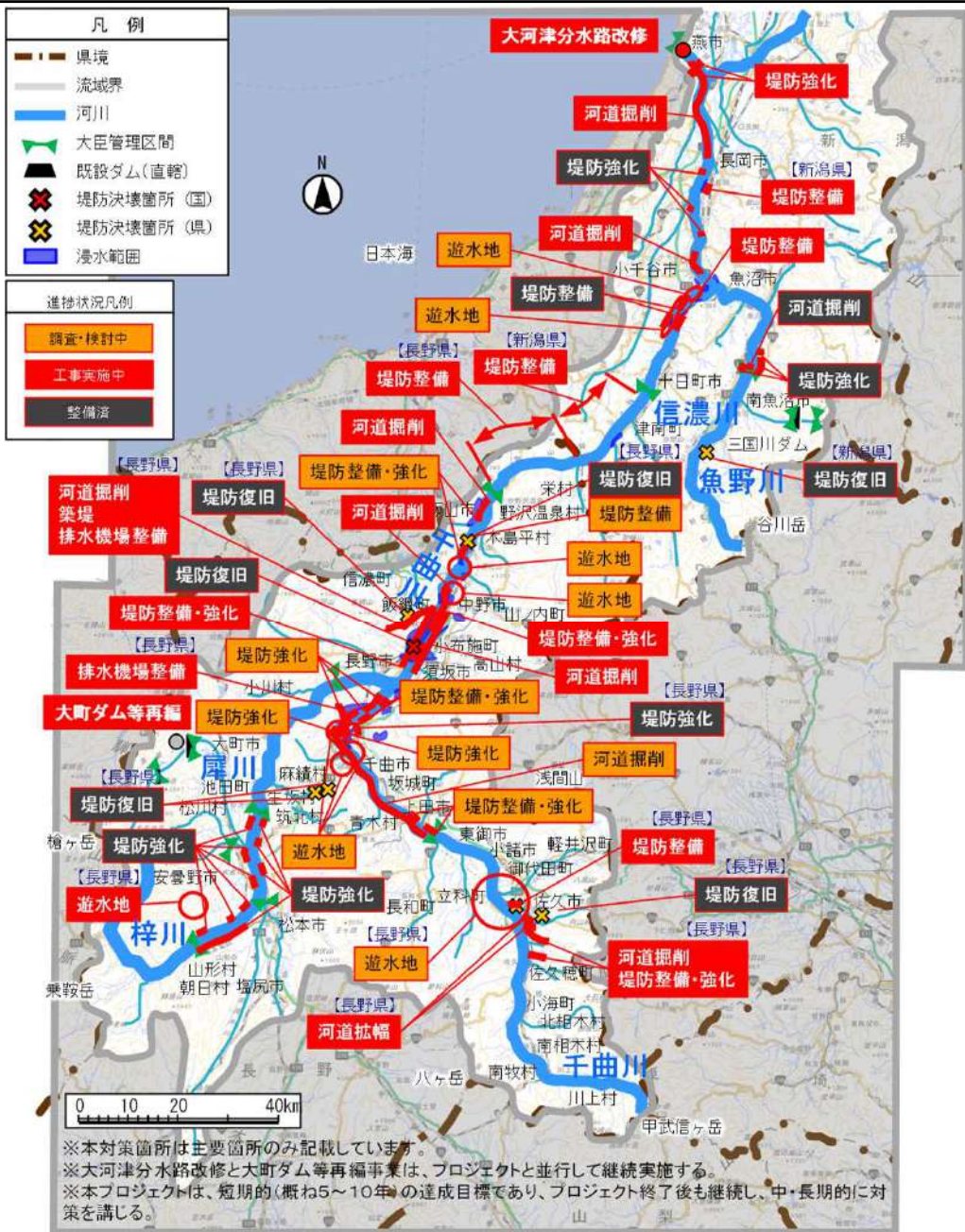
1. プロジェクトの概要

～みんながつながしなのの川～
信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

～「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進～

【R3.12末時点】

○国・新潟県・長野県・信濃川流域の41市町村が連携し、令和2年1月に「緊急治水対策プロジェクト」を立ち上げ、『「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進』をスローガンに、水系全体で河川整備、流域対策・まちづくり、ソフト対策を一体的かつ緊急的に進める。



○令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した信濃川水系において国、県、市町村が連携し、「**信濃川水系緊急治水対策プロジェクト**」を進めています。

○国、県、市町村が連携し、以下の取り組みを実施していくことで、信濃川本川及び千曲川本川の堤防で被災した区間で越水防止を目指します。

- ①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】
- ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】
- ③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】

○令和3年度は、引き続き上下流バランスを踏まえた、全川での河道掘削等の改良復旧、ため池・田んぼダム等既存施設の有効利用(流域対策)、マイタイムラインの普及(ソフト施策)を実施予定

■河川における対策

全体事業費	約1,866億円【国:約1,227億円、県:約639億円】
災害復旧	約586億円【国:約214億円、県:約372億円】
改良復旧	約1,280億円【国:約1,013億円、県:約267億円】
事業期間	令和元年度～令和9年度
目標	【令和6年度まで】 令和元年東日本台風(台風第19号)洪水における ・千曲川本川の大規模な浸水被害が発生した区間等において越水等による家屋部の浸水を防止 ・信濃川本川の越水等による家屋部の浸水を防止
	【令和9年度まで】 令和元年東日本台風(台風第19号)洪水における ・千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水を防止
対策内容	河道掘削、遊水地、堤防整備・強化

※県の改良復旧事業等の新規事業採択により事業費が追加されました。
 ※四捨五入の関係で合計値が合わない場合がある。

■流域における対策

- ・ため池等既存施設の補強や有効活用
- ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
- ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
- ・排水機場等の整備、耐水化の取組
- ・防災拠点等

■ソフト施策

- ・「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
- ・高床式住まいの推進
- ・マイ・タイムラインの普及
- ・公共交通機関との洪水情報の共有
- ・住民への情報伝達手段の強化



長野市穂保地先の堤防決壊、浸水被害状況



新潟県小千谷市内における浸水被害状況

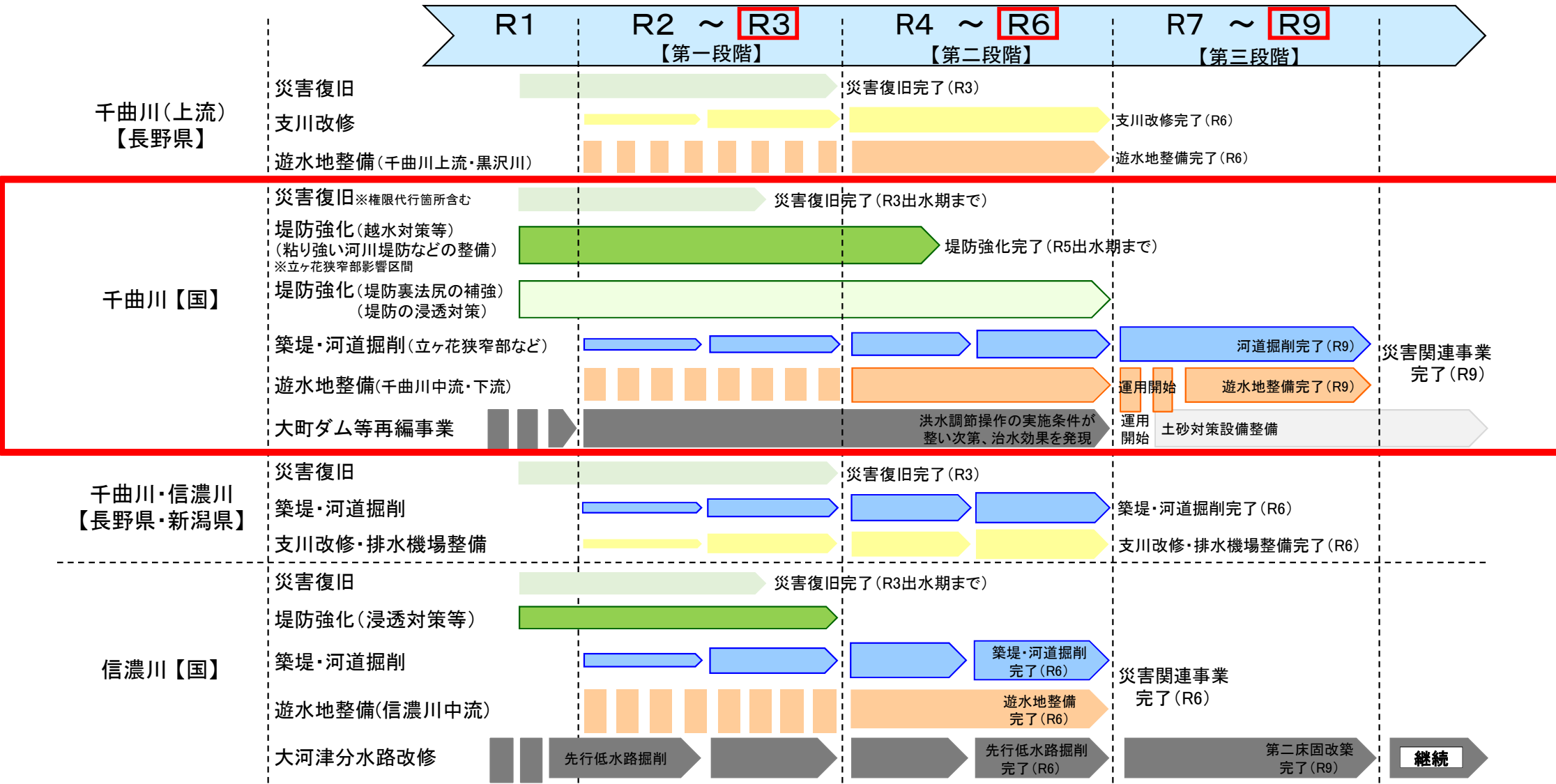
※計数については、今後の調査、検討等の結果、変更となる場合がある。

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

ロードマップ

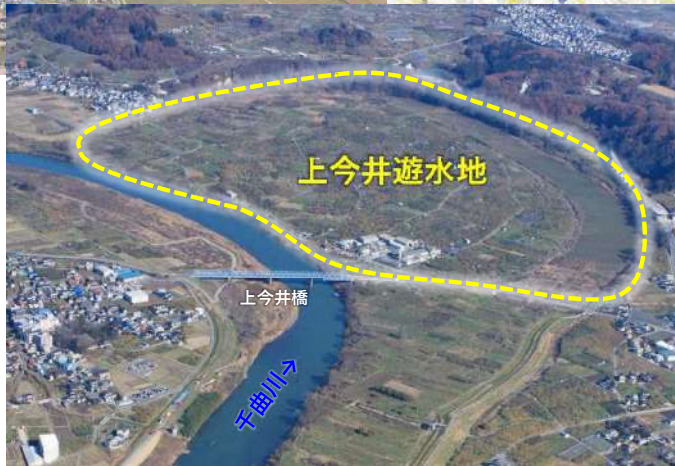
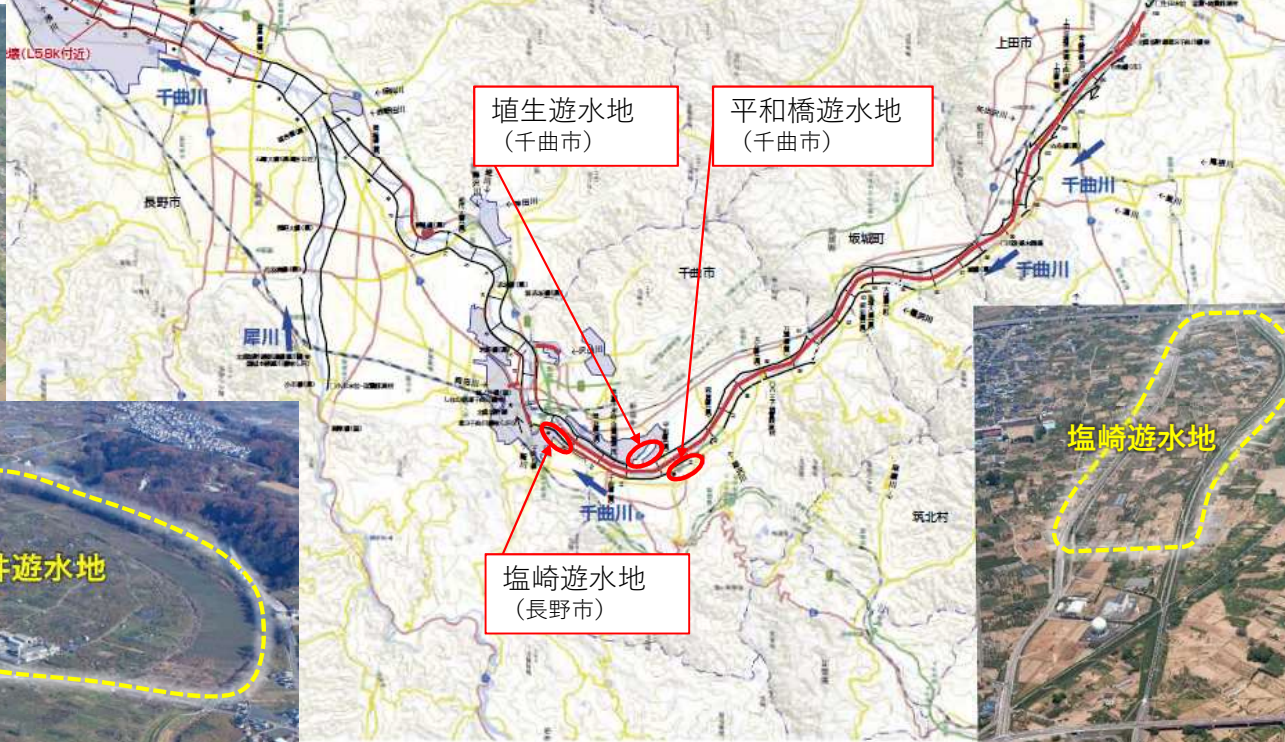
「日本一の大河」上流から下流まで流域一体となった防災・減災対策の推進

- 【第一段階(復旧)】 災害復旧を令和3年度までに完了(国(権限代行含む)は令和3年出水期まで、県は令和3年度)。並びに大河津分水路などの下流域の整備に応じた河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を順次実施
- 【第二段階(復興)】 改良復旧である堤防強化(粘り強い河川堤防構造など)や遊水地、大町ダム等再編事業(容量再編)を完了
- 【第三段階(復興)】 遊水地、河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を令和9年度完了



遊水地計画地 位置図

- 令和元年東日本台風に対する治水対策として、直轄管理区間において、5箇所の遊水地整備を予定。
- 令和6年度（若しくは令和9年度）までの遊水地事業完成を目指す。

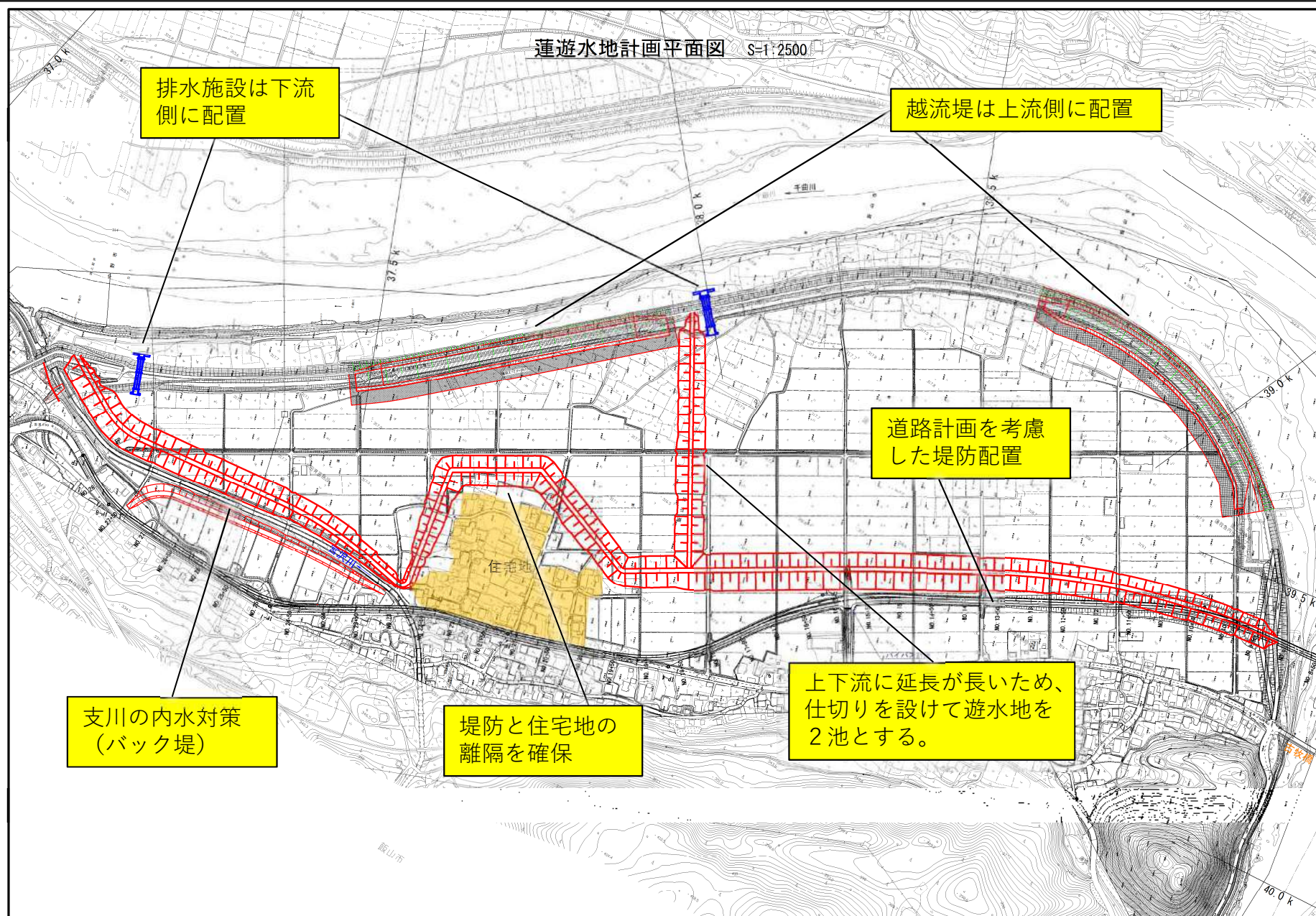


※遊水地は現在計画検討中であり、範囲等は確定したものではありません。 4

2. 遊水地の説明

蓮遊水地 事業計画範囲

- ・ 事業計画地は、住宅地を避け、県道路事業計画を考慮し、遊水地を形成するよう計画している。

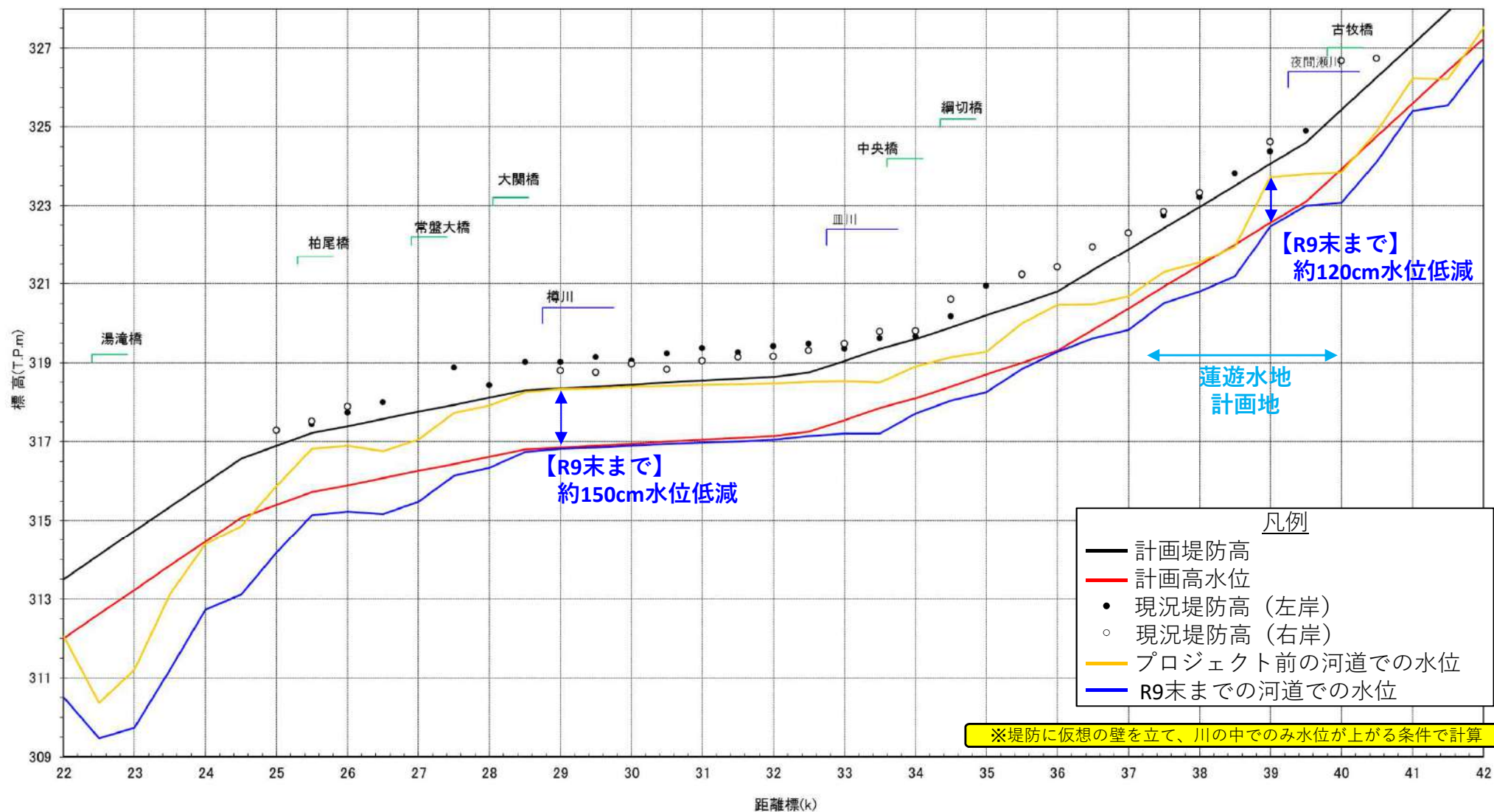


※図面は、測量調査、地元調整などにより、今後変更となる可能性があります。

水位低下効果について(戸狩狭窄部上流)

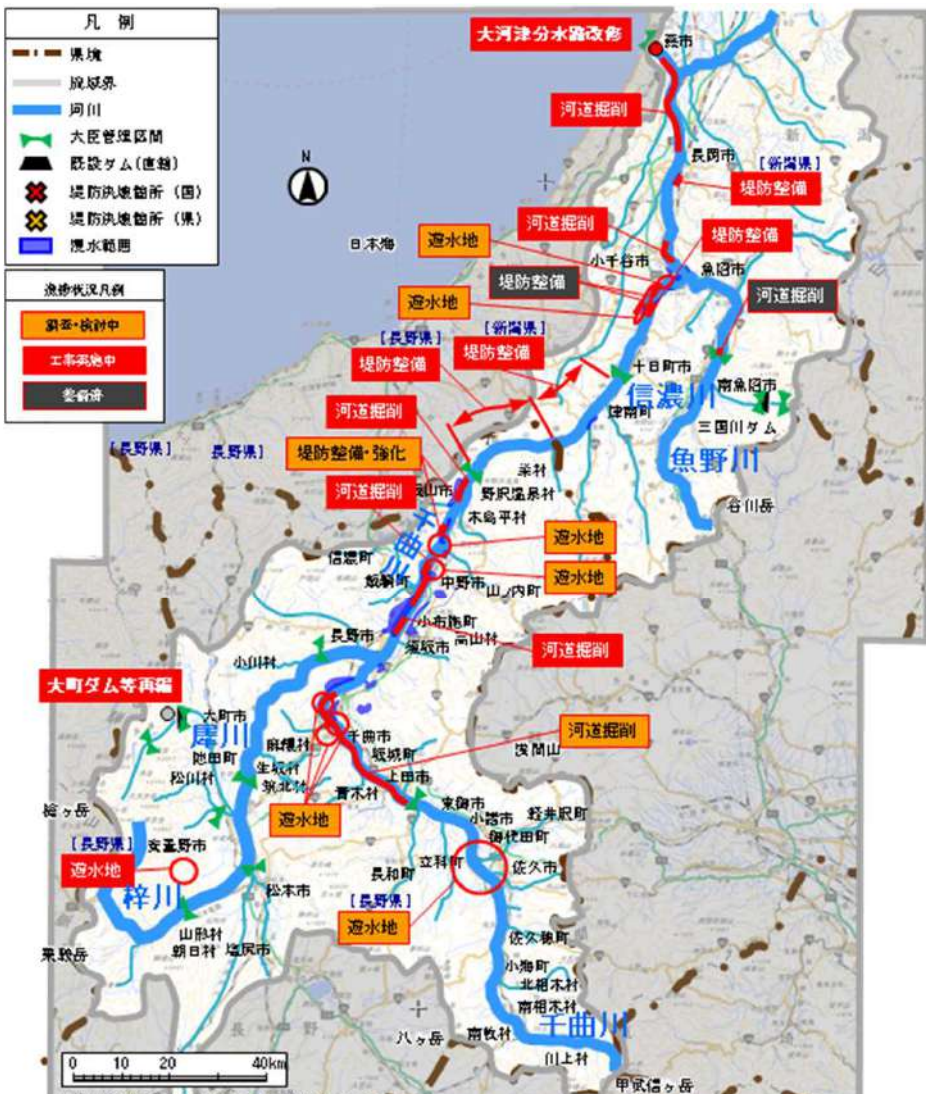
- ・ 令和2年度からの各年の河道掘削により、段階的に水位の低下を図る。
- ・ 令和9年度末までに河道掘削・遊水地の整備と合わせて、約150cm程度千曲川本川の水水位低減させる。

令和元年度東日本台風規模の洪水が
氾濫せずに流下した場合の水位



遊水地の必要性について（上下流バランスを踏まえた河道掘削・遊水地整備）

- ・プロジェクトでは、千曲川を含む信濃川流域全域で、上下流バランス※を見ながら河道掘削を実施する計画としている。
- ・河道掘削のみではプロジェクトの目標を期間内に達成することができないため、遊水地等「洪水を貯留する機能」を有する事業も合わせて実施する。



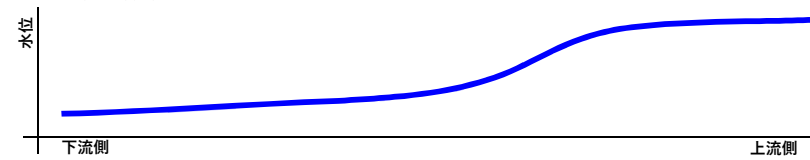
※上下流バランスとは
 河道掘削は河川水位を下げるため有効な手段ではあるが、局所的に掘削することで、下流域で水害リスクが上がるおそれがある。
 本プロジェクトでは、河道掘削により上流域・下流域での水位の変動を流域全体で確認し、流域全体で水位低下を図れるよう、河道掘削箇所を選定している。

河道掘削実施前（現況）

■ 河川の状況（上空より）※イメージ



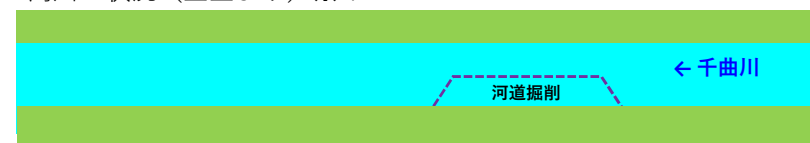
■ 水位縦断面図 ※イメージ



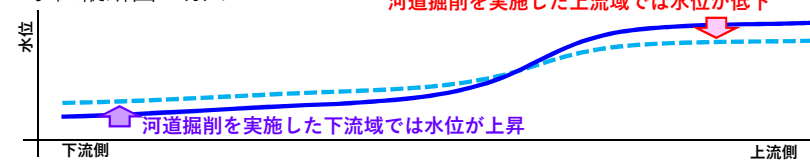
川幅の狭い区間の上流側は「堰上げ」により水位が高い状態にある。

河道掘削のみを実施した場合

■ 河川の状況（上空より）※イメージ



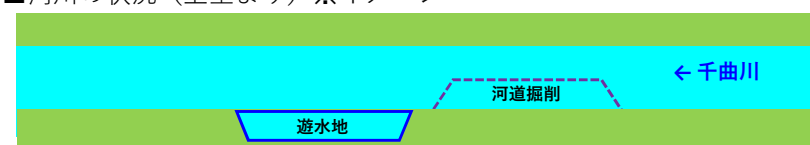
■ 水位縦断面図 ※イメージ



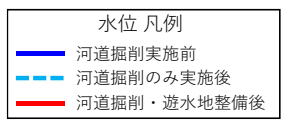
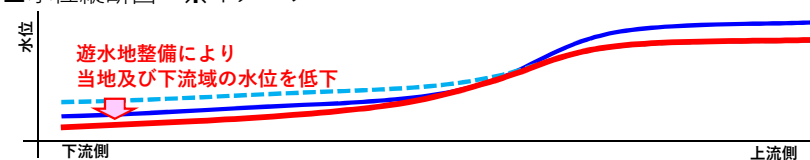
河道掘削を実施することで上流域の水位が低下するが、下流域では水位が上昇する恐れがある。

河道掘削とあわせて遊水地を整備

■ 河川の状況（上空より）※イメージ



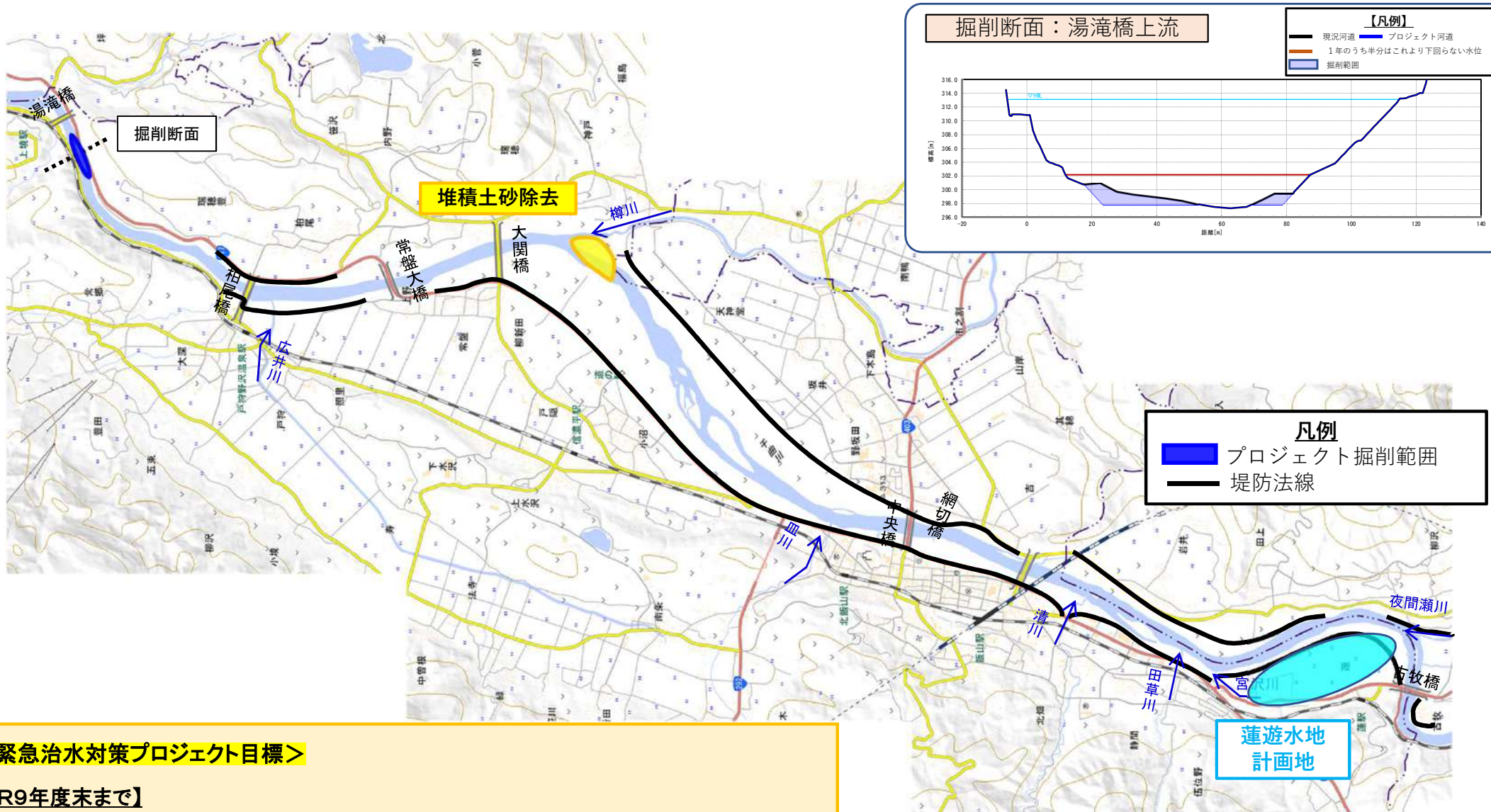
■ 水位縦断面図 ※イメージ



河道掘削とあわせて遊水地を整備することで、流域全体の水位低下を図る。

信濃川水系緊急治水対策プロジェクトにおける河道掘削箇所について(戸狩狭窄部)

- 信濃川流域全体での上下流バランスや氾濫域のリスク等を総合的に勘案しつつ、令和2年度から千曲川本川の水位低下を目指し、戸狩狭窄部の掘削を段階的に進める。
- 河道掘削を行う範囲を段階的に広げていき、上流に位置する戸狩狭窄部のせき上がりを受けている範囲において、令和元年東日本台風規模の洪水を計画堤防高以下で流下させる(R9年度末まで)



<緊急治水対策プロジェクト目標>

【R9年度末まで】

令和元年東日本台風における、千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水を防止。

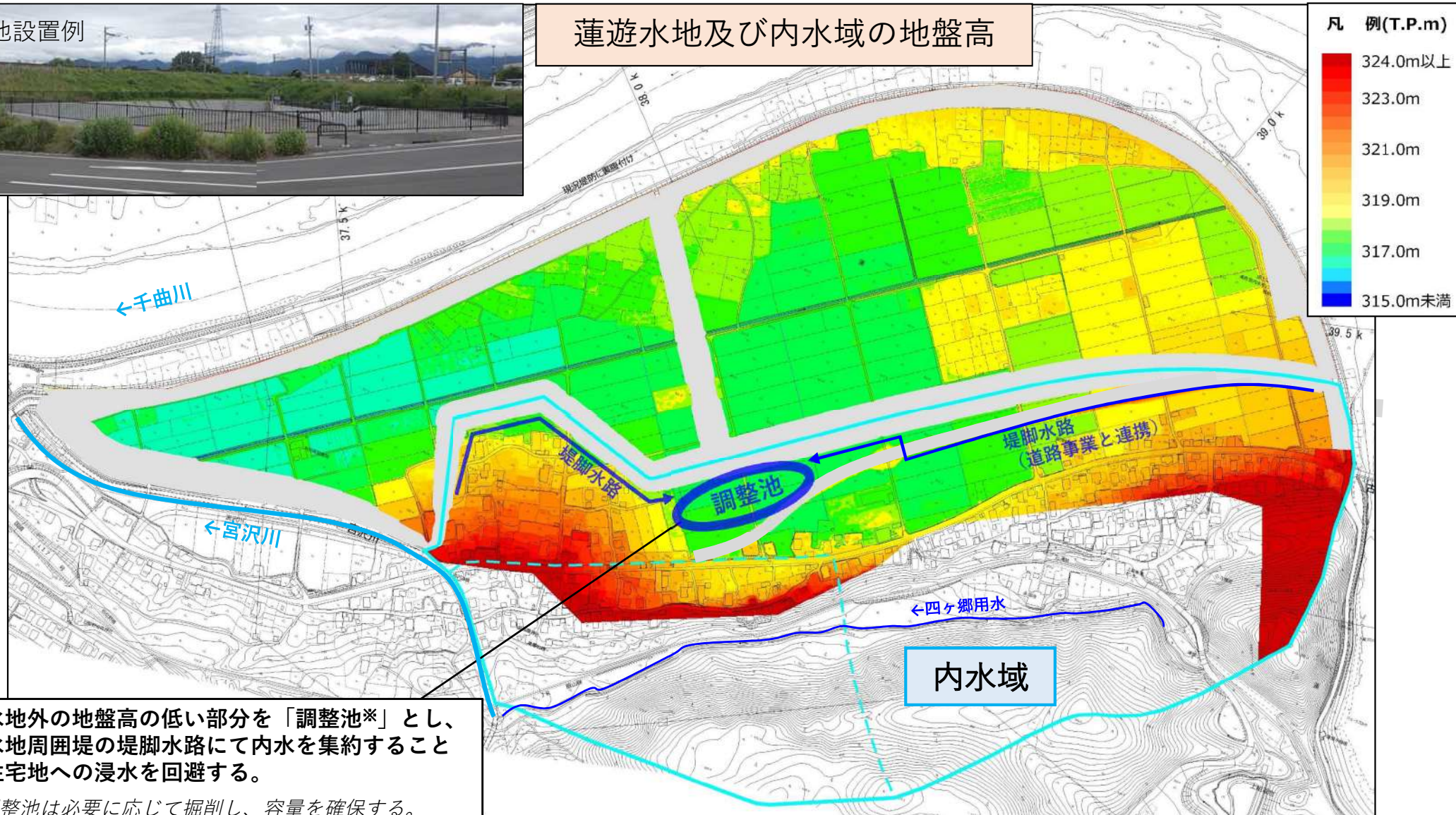
※河道掘削については上下流バランスを踏まえ、段階的に掘削を行う予定
 なお、詳細な河道掘削範囲は今後、測量結果等を踏まえて決定する

蓮遊水地 内水対策検討状況

- ・ 遊水地整備、道路バイパス事業に伴い、これまで内水のはん濫原であった土地が減少し、それ以外の土地に浸水リスクが上がる可能性がある。
- ・ 現況地盤高、遊水地、道路バイパス事業実施後の形状を考慮し、内水対策として必要となる施設配置について検討している。



蓮遊水地及び内水域の地盤高



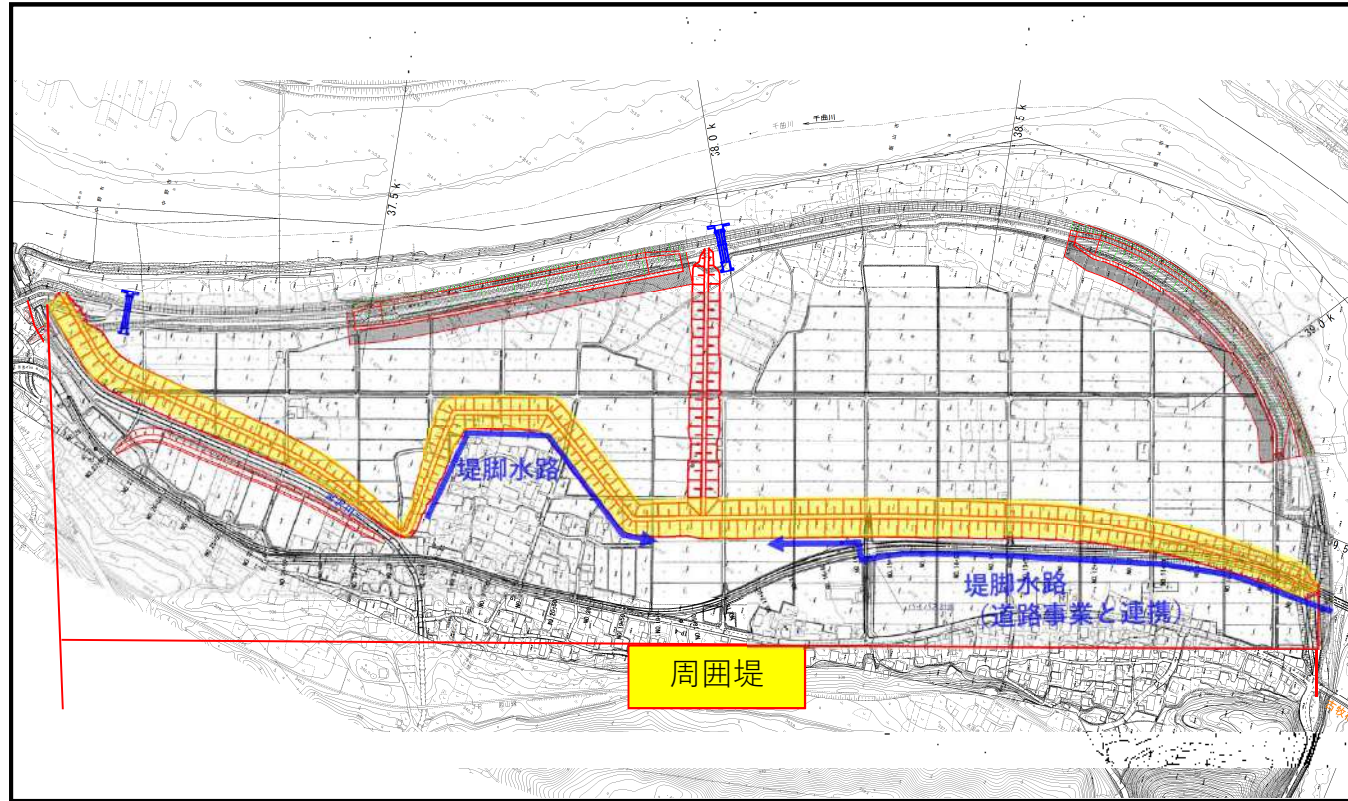
- ・ 遊水地外の地盤高の低い部分を「調整池※」とし、遊水地周囲堤の堤脚水路にて内水を集約することで住宅地への浸水を回避する。

※調整池は必要に応じて掘削し、容量を確保する。
 ※掘削では必要とする容量が確保できない場合は、排水機場の設置についても検討する。

※内水対策は現在検討中であり、図中の調整池、設置位置などは確定したものではありません。

蓮遊水地 周囲堤・堤脚水路

- ・ 現在、周囲堤は住宅地を避け、県の道路計画を考慮した位置に配置することを計画している
- ・ 住宅地などと一定程度の離隔(7m程度)を確保し、坂路の他、水路を設置し、内水被害の防止を計画する。



堤防と住宅地の間は7m程度の離隔を確保。

住宅地

宅地との離隔
7.0m以上

7000
250 6500 250

遊水地

周囲堤

1500 余裕

▽遊水地内水位

堤脚水路を設置し、調整池まで導く。

※図面は、測量調査、地元調整などにより、今後変更となる可能性があります。